

# 岡山県感染症週報 2016年 第41週 (10月10日～10月16日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

## ◆2016年 第41週 (10/10～10/16) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

- 第39週 2類感染症 結核 1名 (60代 男)  
 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O157: 幼児 女)  
 5類感染症 梅毒 1名 (30代 男)
- 第40週 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O157: 30代 女)  
 4類感染症 日本脳炎 1名 (60代 女)
- 第41週 2類感染症 結核 3名 (30代 男 1名、40代 男 1名、80代 男 1名)  
 5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名 (70代 男)

### ■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- RSウイルス感染症は、県全体で 127 名 (定点あたり 1.96 → 2.35 人) の報告があり、第 35 週 (8/29～9/4) 以降、7 週連続で増加しました。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 39 週に 1 名、第 40 週に 1 名の報告があり、2016 年第 41 週まで (～10/16) の報告数は 53 名となりました。岡山県では「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。
2. **RSウイルス感染症**は、県全体で 127 名 (定点あたり 1.96 → 2.35 人) の報告があり、第 35 週 (8/29～9/4) 以降、7 週連続で増加しました。過去 10 年間の同時期と比較して最も多い状態です。地域別では、美作地域 (6.67 人)、岡山市 (3.29 人)、備北地域 (2.50 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは、「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
3. **日本脳炎**は、第 40 週に 1 名の報告がありました。岡山県では、2013 年以来、3 年ぶりの患者発生です。この感染症は、日本脳炎ウイルスを保有する蚊 (主にコガタアカイエカ) に刺されることで感染します。ウイルスに感染しても症状が現れずに経過する 경우가ほとんどですが、まれに発熱、頭痛、おう吐などで発症し、意識障害やまひ等の神経系の障害を引き起こして、後遺症を残したり死に至ることがあります。感染の予防法は、蚊に刺されないようにすることとワクチンを接種することです。

### 【日本脳炎の予防接種を計画的に受けましょう】

季節にかかわらず、1 年中いつでも予防接種を受けることができます。

定期予防接種の対象となる方、接種機会を逃した方は、ぜひ予防接種を受けましょう。

詳しくは、お住まいの市町村の予防接種担当課へお問い合わせください。

[おかやま医療情報ネット](#)から、予防接種を実施している医療機関を検索することができます。

予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

[日本脳炎ワクチン接種に関するQ & A \(厚生労働省\)](#)

[岡山県予防接種センターに相談下さい \(岡山県健康推進課\)](#)

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	▲	★★★	RSウイルス感染症	▲	★★★★★
咽頭結膜熱	▲	★★★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	★
感染性胃腸炎	▲	★★★	水痘	▲	★
手足口病	▲	★	伝染性紅斑	▲	★
突発性発疹	▲	★	百日咳	▲	★★
ヘルパンギーナ	▶	★	流行性耳下腺炎	▲	★★★
急性出血性結膜炎	▶		流行性角結膜炎	▲	★★★
細菌性髄膜炎	▶		無菌性髄膜炎	▼	
マイコプラズマ肺炎	▼		クラミジア肺炎	▼	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	▶	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

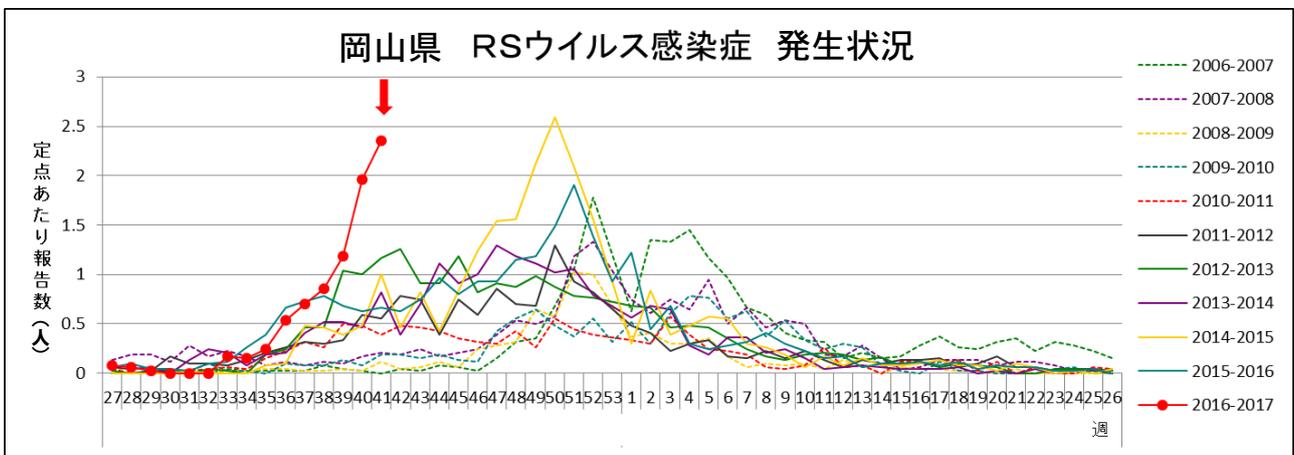
【記号の説明】 前週からの推移： ▲：大幅な増加    ▲：増加    ▶：ほぼ増減なし    ▼：大幅な減少    ▼：減少  
 大幅：前週比100%以上の増減    増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。  
 空白：発生なし    ★：わずか    ★★：少し    ★★★：やや多い    ★★★★：多い    ★★★★★：非常に多い

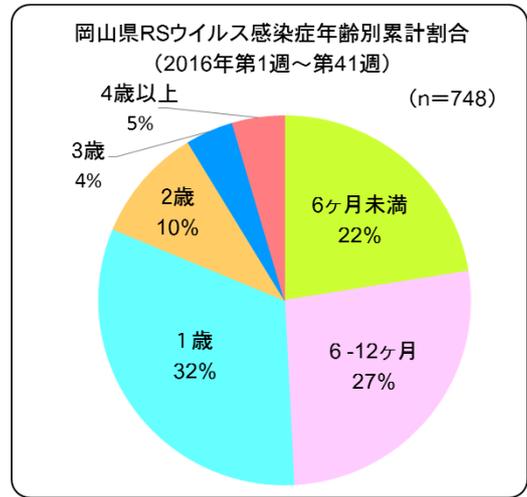
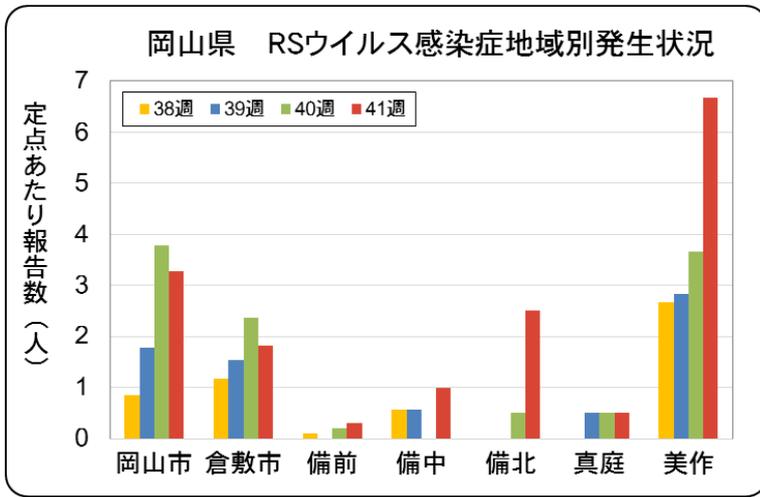
## 今週の注目感染症

### RSウイルス感染症

【岡山県の発生状況】

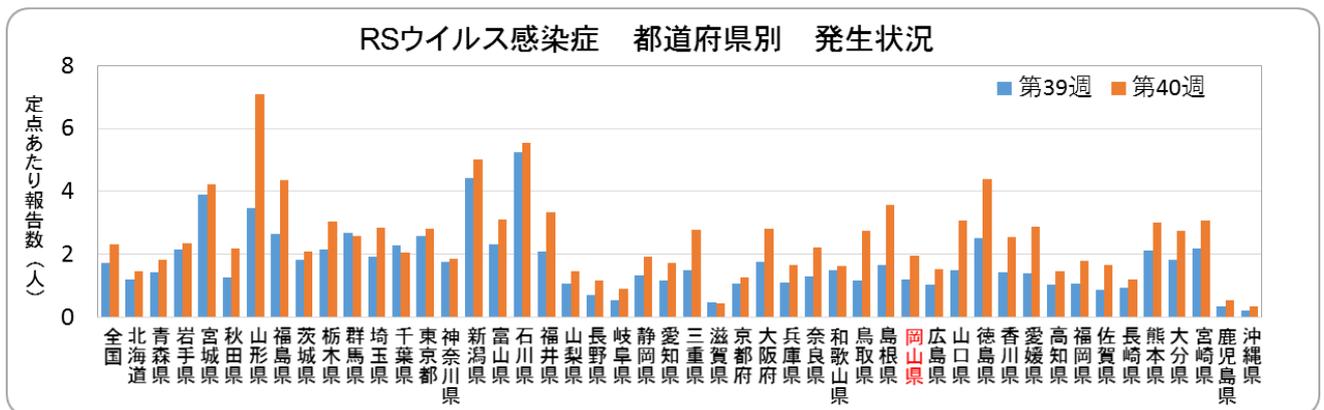
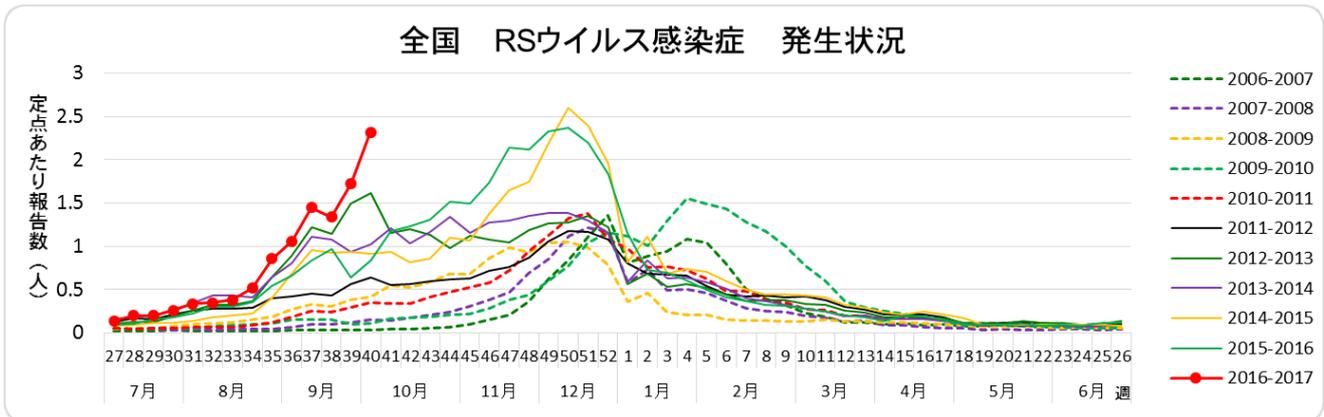


※RSウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとしてグラフを作成しています。



RSウイルス感染症は、県全体で127名（定点あたり1.96 → 2.35人）の報告があり、第35週（8/29～9/4）以降、7週連続で増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多い状態です。地域別では、美作地域（6.67人）、岡山市（3.29人）、備北地域（2.50人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。全ての地域で患者が報告されていますが、特に美作地域（3.67 → 6.67人）、備北地域（0.50 → 2.50人）では、前週より大きく増加しました。2016年第41週までの年齢別累計割合では、1歳未満の乳児が全体の49%を占めています。例年、秋から冬にかけて多くの患者が報告されています。今後、さらに患者が増加する恐れがありますので、ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、特に重症化しやすい乳児がいる家庭では、感染予防に努めてください。

#### 【全国の発生状況】



全国の第40週（10/3～10/9）の発生状況は、定点あたり報告数が2.32人であり、第33週（8/15～8/21）以降、急激に増加しています。過去10年間の同時期と比較して最も多い状態です。都道府県別では、山形県（7.10人）、石川県（5.55人）、新潟県（5.02人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。東日本を中心に、全国的に多くの患者が報告されています。中国・四国地方では、徳島県（4.39人）、島根県（3.57人）、山口県（3.08人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、近隣県でも患者が増加しています。

## 【RSウイルス感染症とは】

RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症です。感染後2～8日の潜伏期間を経て、発熱、鼻汁、咳などの風邪様症状が現れます。約7割の乳児が1歳になるまでにRSウイルスに感染し、そのうちの約3割が肺炎や細気管支炎といった重篤な症状を引き起こします。この感染症は、乳児が感染すると重症化する恐れがありますが、症状が悪化しても平熱か38℃以下のことが多いため、お子さんの様子に注意することが必要です。熱が下がっても症状が改善せず、ゼーゼーとのが鳴るなどの症状があるときは、早めに医療機関を受診してください。母体からの移行抗体では感染を防ぐことができないため、生後6ヶ月以内にRSウイルスに感染した場合は、重症化し入院を必要とすることもあります。年齢を問わず、生涯にわたり感染と発症を繰り返しますが、通常は年齢が上がるにつれて、重症化しにくくなります。

## 【感染経路】

感染している人が咳やくしゃみ、または会話をした際に飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込むことや、ウイルスがついている手指や物品を触ったり、なめたりすることにより感染します。

## 【乳児への感染予防】

乳児期を過ぎると、RSウイルスに感染しても軽症となり、感染していることに気づかずに、乳児にうつしてしまうことがあります。そのため、咳などの呼吸器症状がある人は、可能な限り1歳未満の乳児との接触を避けることが感染拡大の予防につながります。風邪をひいたと思ったらマスクをする、鼻をかんだ後はしっかりと手を洗う、乳児が使うおもちゃなどは消毒用アルコールで拭くなど、乳児への感染予防に努めましょう。現在、RSウイルス感染症に有効なワクチンはありません。

## 【治療】

特効薬はないため、症状に応じた対症療法を行います。

[RSウイルス感染症とは（国立感染症研究所）](#)

[RSウイルス感染症に関するQ&A（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2016年 41週(定点把握)

( 2016/10/10~2016/10/16 )

2016年10月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	4	0.05	1	0.05	2	0.13	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	127	2.35	46	3.29	20	1.82	3	0.30	7	1.00	10	2.50	1	0.50	40	6.67
咽頭結膜熱	17	0.31	6	0.43	4	0.36	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	0.61	7	0.50	9	0.82	2	0.20	6	0.86	-	-	-	-	9	1.50
感染性胃腸炎	239	4.43	66	4.71	59	5.36	40	4.00	30	4.29	8	2.00	15	7.50	21	3.50
水痘	18	0.33	6	0.43	8	0.73	-	-	-	-	1	0.25	-	-	3	0.50
手足口病	24	0.44	17	1.21	3	0.27	1	0.10	1	0.14	1	0.25	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	5	0.09	1	0.07	2	0.18	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	17	0.31	7	0.50	8	0.73	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	10	0.19	4	0.29	1	0.09	4	0.40	-	-	1	0.25	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	52	0.96	18	1.29	20	1.82	8	0.80	2	0.29	1	0.25	1	0.50	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	0.75	6	1.20	2	0.50	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

保健所別報告患者数 2016年 41週(発生レベル設定疾患)

( 2016/10/10～2016/10/16 )

2016年10月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	4	0.05	1	0.05	2	0.13	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	17	0.31	6	0.43	4	0.36	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	0.61	7	0.50	9	0.82	2	0.20	6	0.86	-	-	-	-	9	1.50
感染性胃腸炎	239	4.43	66	4.71	59	5.36	40	4.00	30	4.29	8	2.00	15	7.50	21	3.50
水痘	18	0.33	6	0.43	8	0.73	-	-	-	-	1	0.25	-	-	3	0.50
手足口病	24	0.44	17	1.21	3	0.27	1	0.10	1	0.14	1	0.25	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	5	0.09	1	0.07	2	0.18	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	10	0.19	4	0.29	1	0.09	4	0.40	-	-	1	0.25	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	52	0.96	18	1.29	20	1.82	8	0.80	2	0.29	1	0.25	1	0.50	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	0.75	6	1.20	2	0.50	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2016年 第41週 2016/10/10~2016/10/16 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	2	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	127	27	28	51	14	3	2	2	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	17	-	-	4	6	1	2	1	-	2	-	-	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	-	-	2	4	3	4	3	3	2	2	2	6	-	2
感染性胃腸炎	239	4	28	40	27	21	17	23	6	8	15	3	13	3	31
水痘	18	1	-	3	2	2	5	3	1	-	-	-	-	1	-
手足口病	24	1	2	8	7	2	2	-	1	-	-	-	-	-	1
伝染性紅斑	5	-	-	-	-	2	1	2	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	17	1	5	10	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヘルパンギーナ	10	-	1	5	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
流行性耳下腺炎	52	-	-	3	2	6	12	5	7	3	4	1	8	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	3	1	1	-

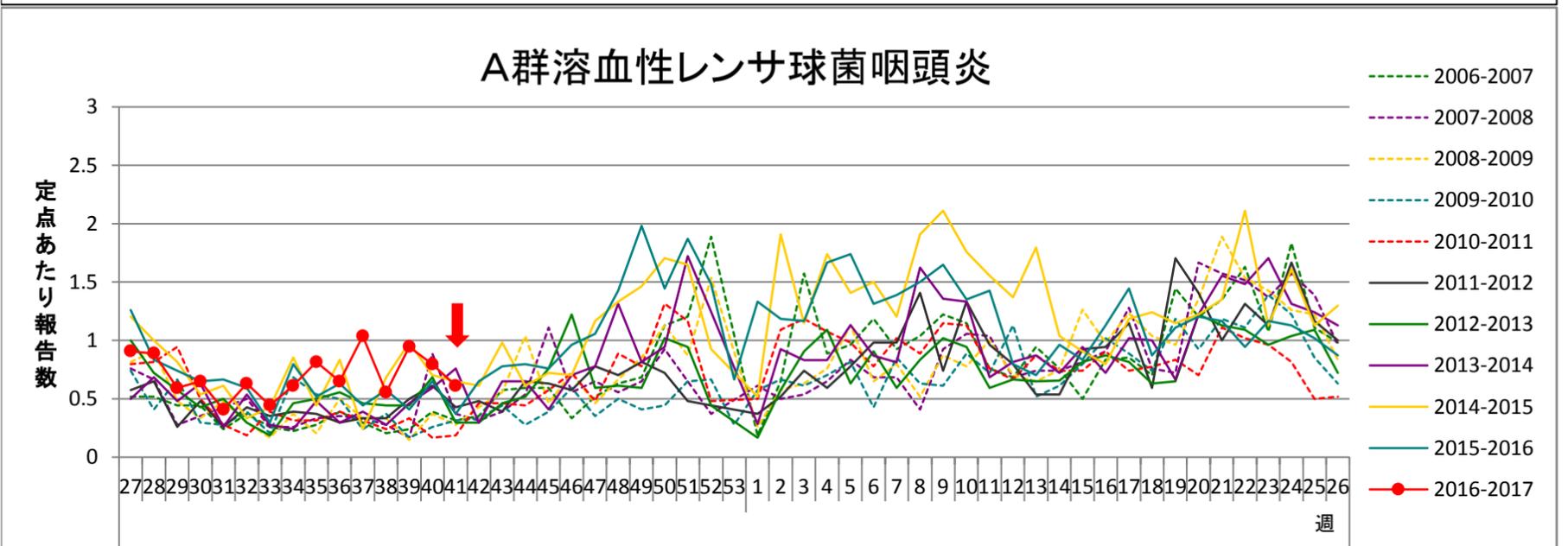
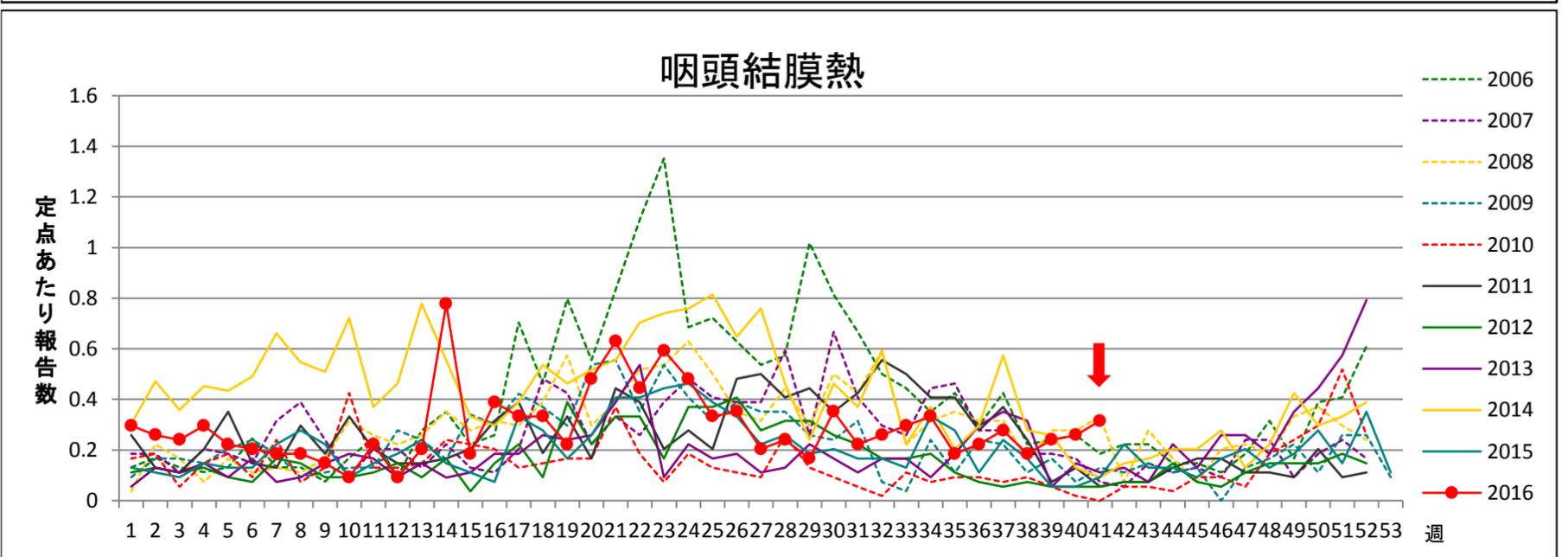
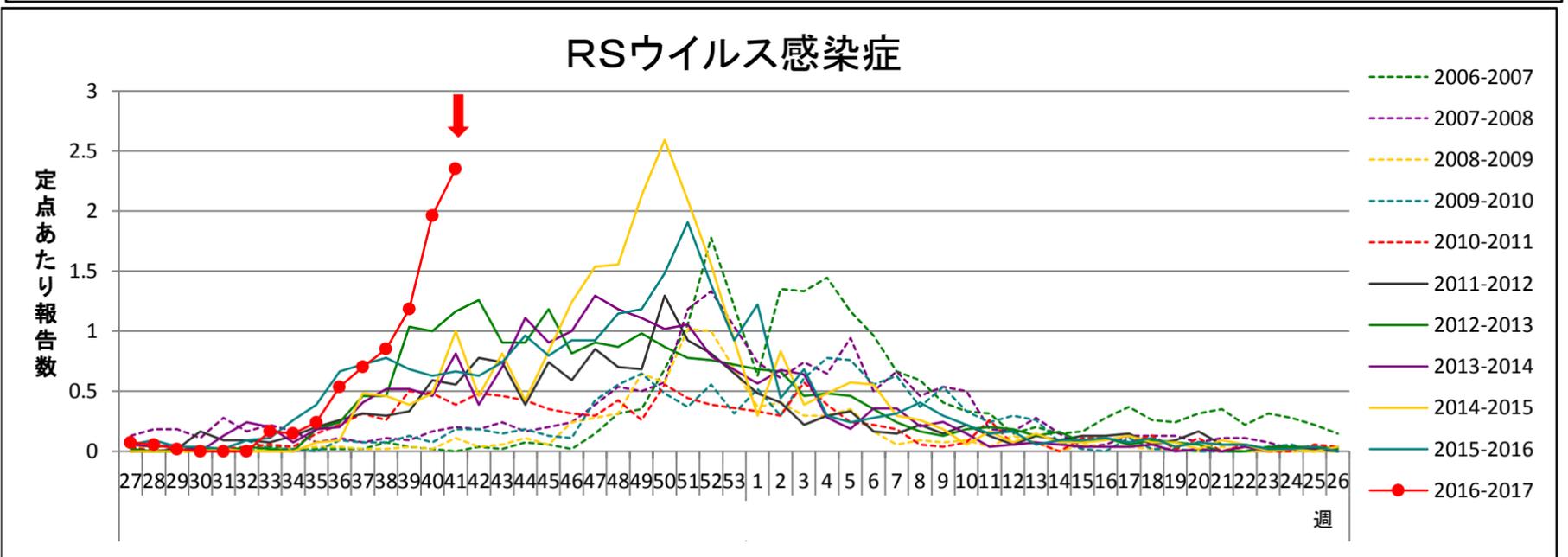
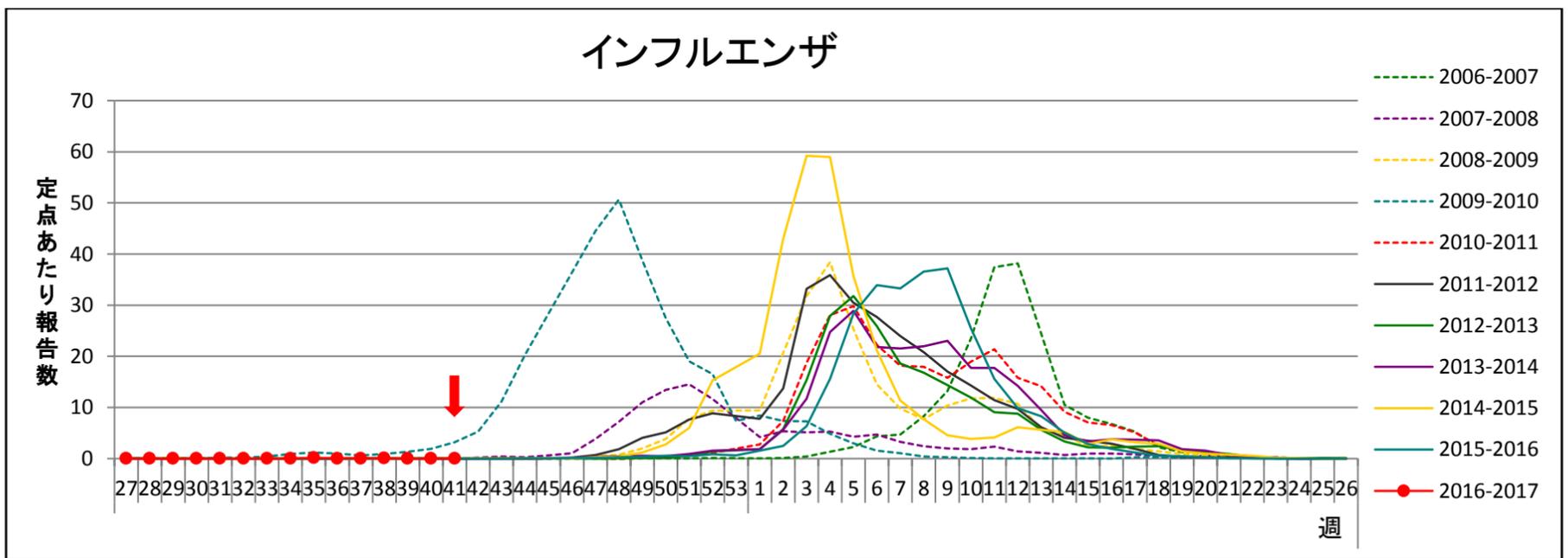
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 )

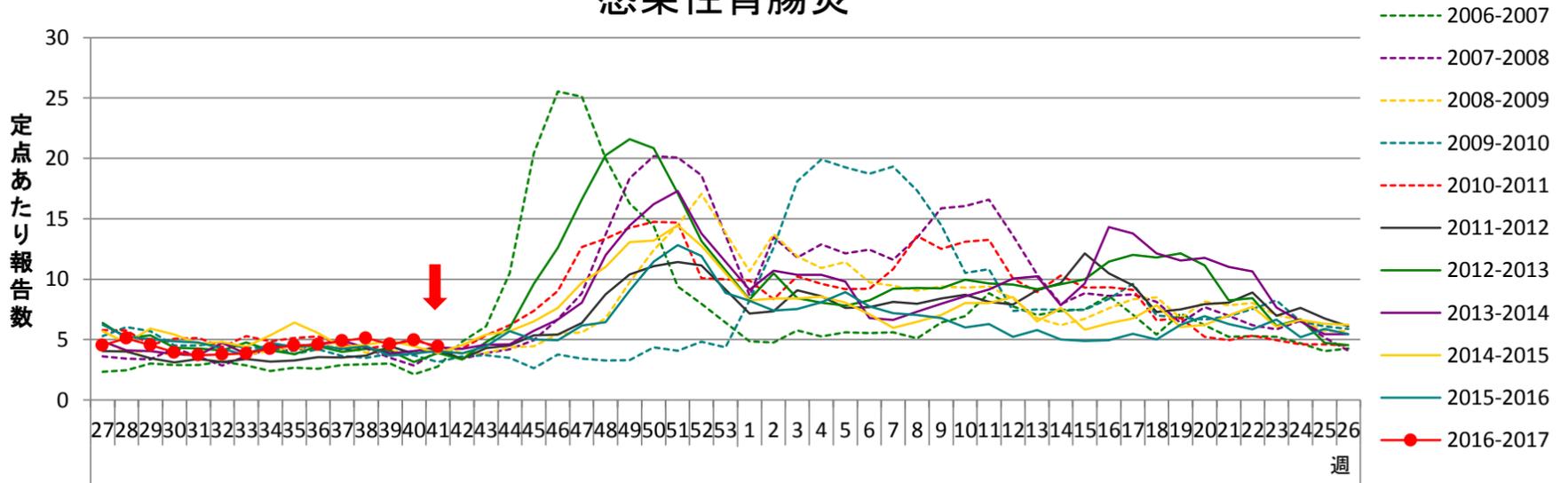
# 全数把握 感染症患者発生状況

2016年 41週

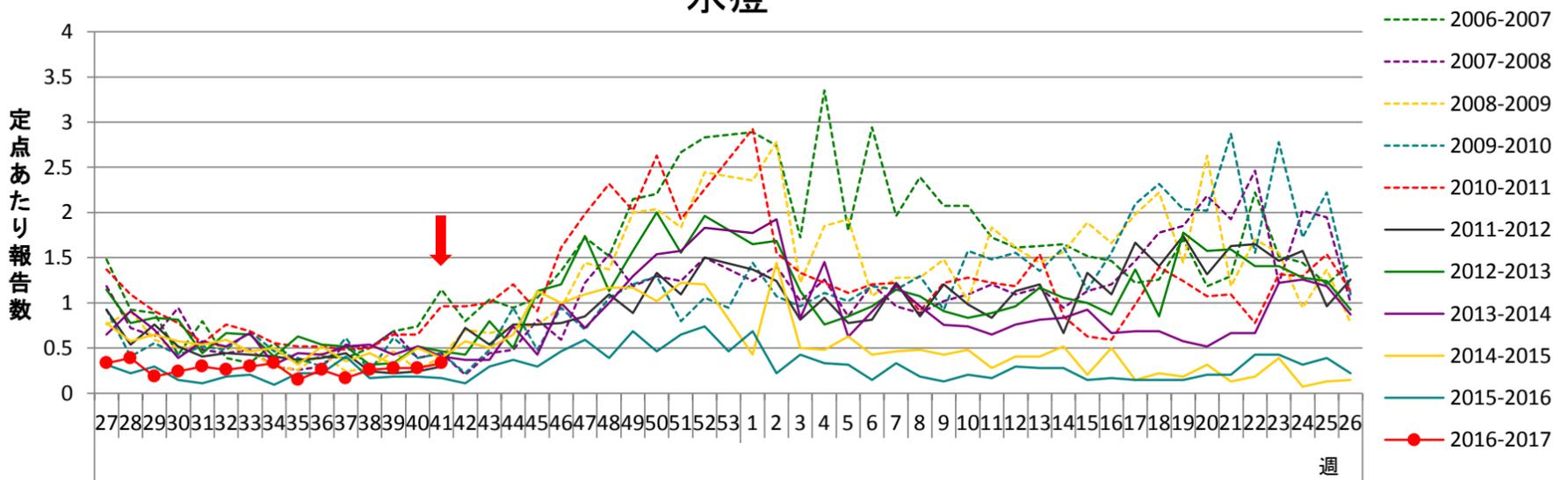
分類	疾病名	2016			疾病名	2016			疾病名	2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	235	374	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	2	腸管出血性大腸菌感染症	-	53	63
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	2	3	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	3	9
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	1
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	1	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	1	1
	デング熱	-	1	2	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	1	-	日本紅斑熱	-	3	3
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	2
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	21	28
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	17	17	ウイルス性肝炎*3	-	3	9	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	20	34
	急性脳炎*4	-	8	14	クリプトスポリジウム症	-	-	1	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	3	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	7	2	後天性免疫不全症候群	-	9	21	ジアルジア症	-	1	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	6	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	23	35
	水痘(入院例に限る。)	-	1	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	31	25
	播種性クリプトコックス症	-	1	1	破傷風	-	2	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	-	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-



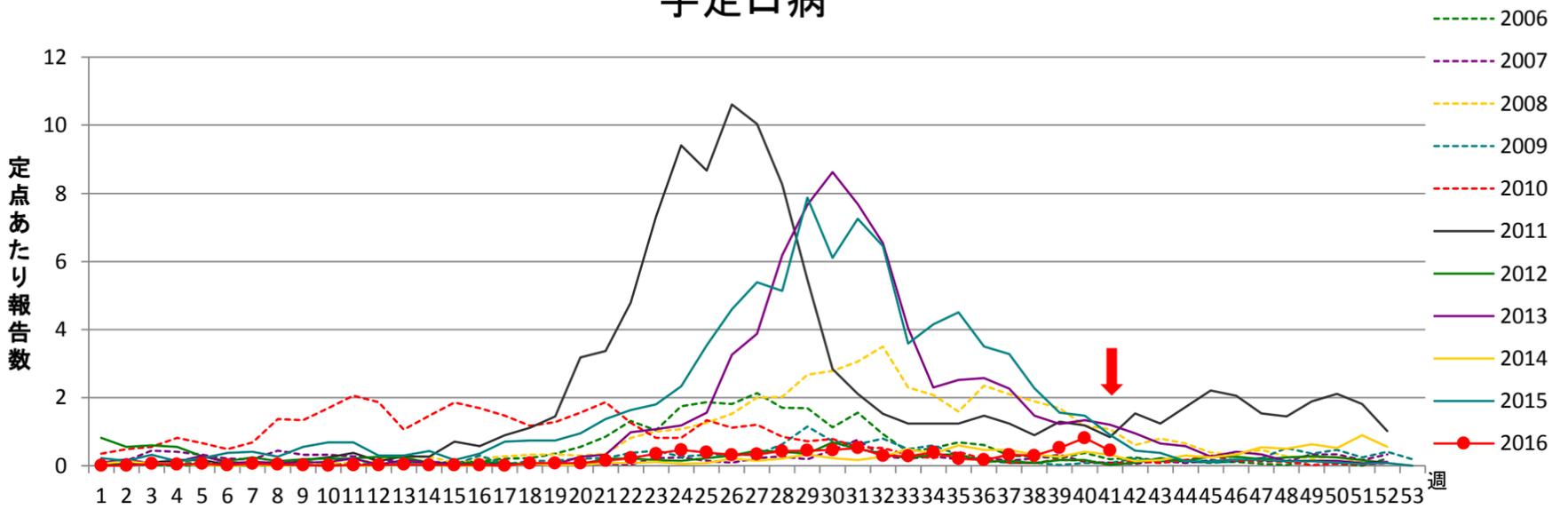
### 感染性胃腸炎



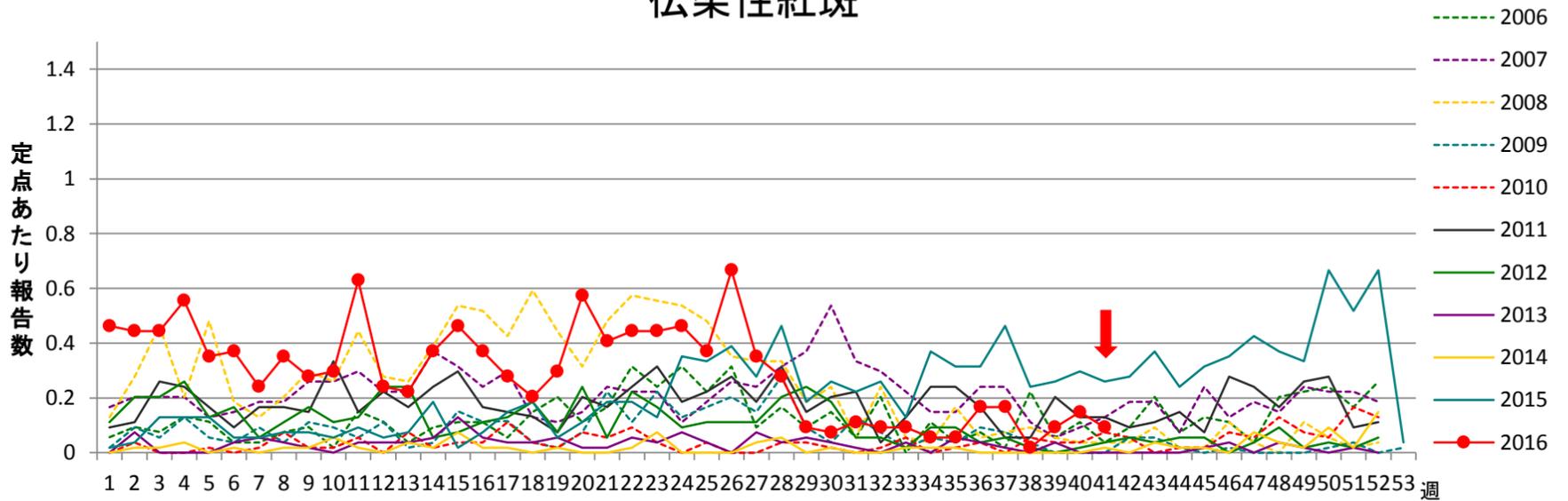
### 水痘



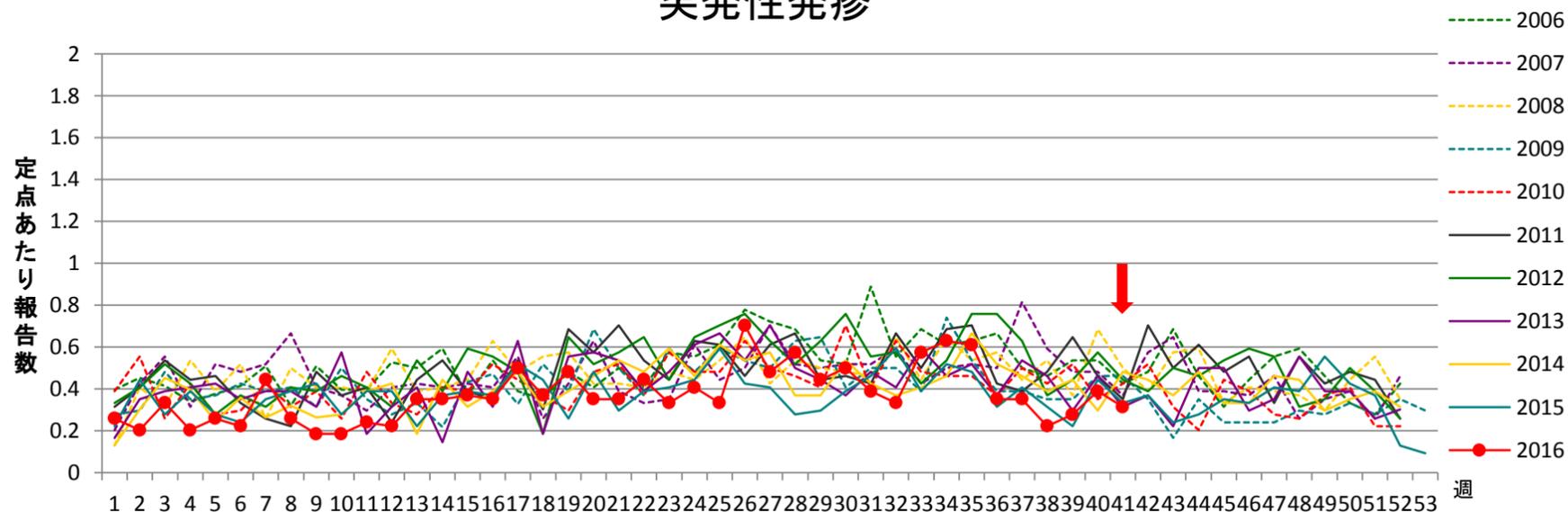
### 手足口病



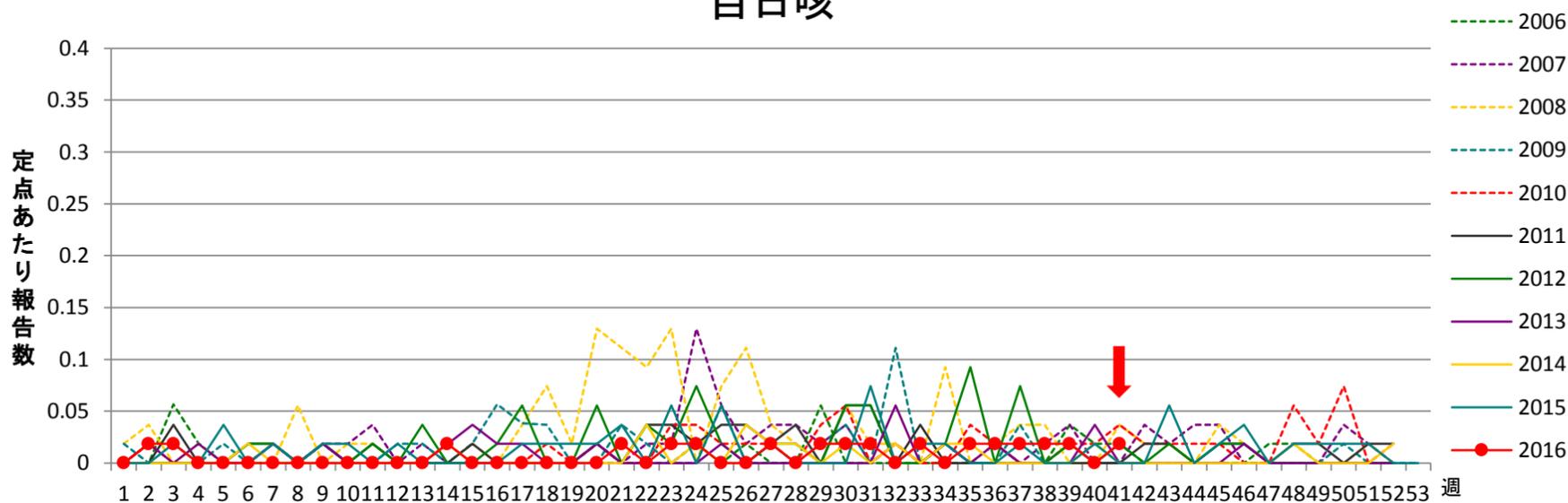
### 伝染性紅斑



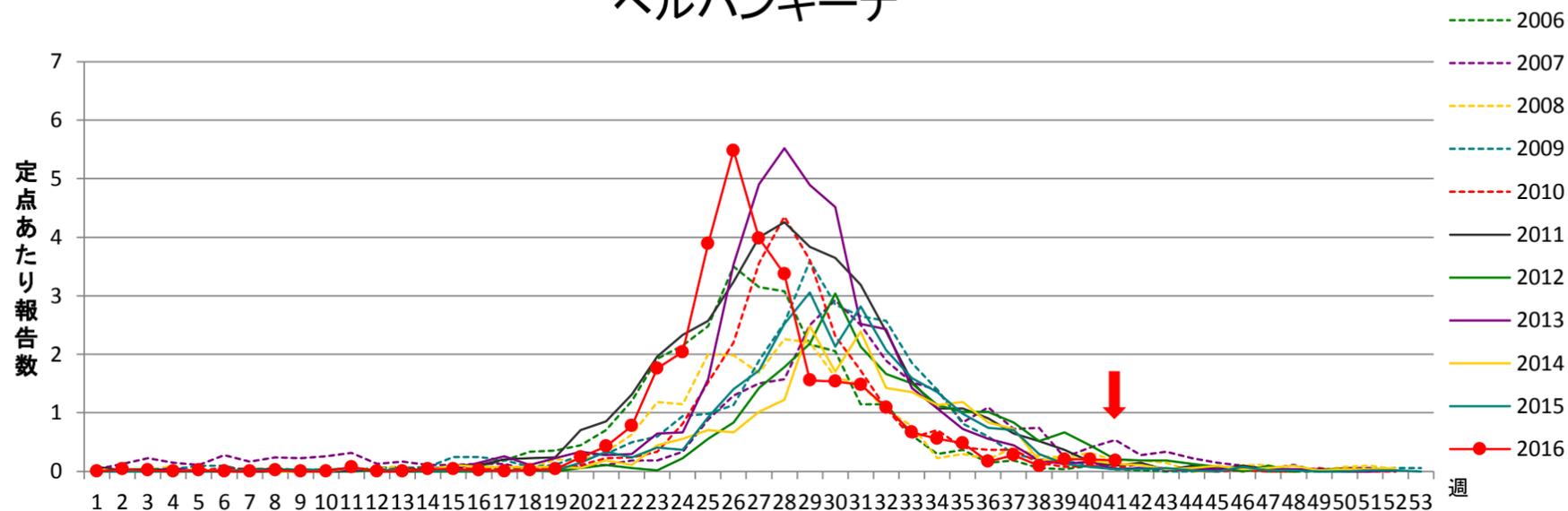
### 突発性発疹



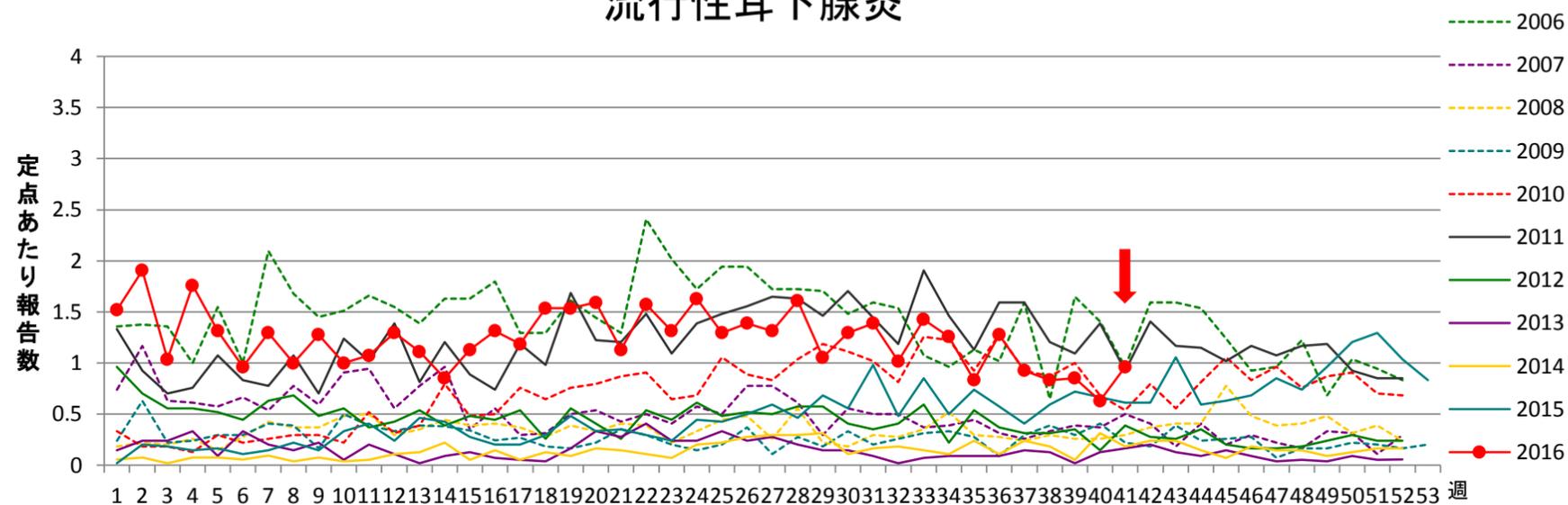
### 百日咳



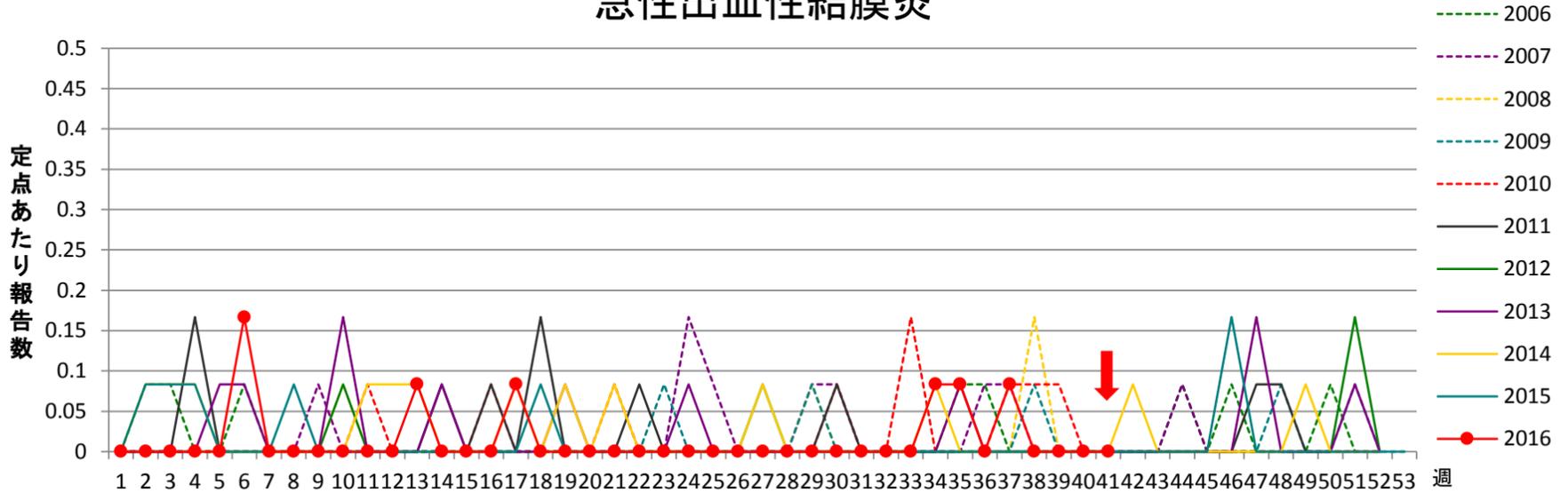
### ヘルパンギーナ



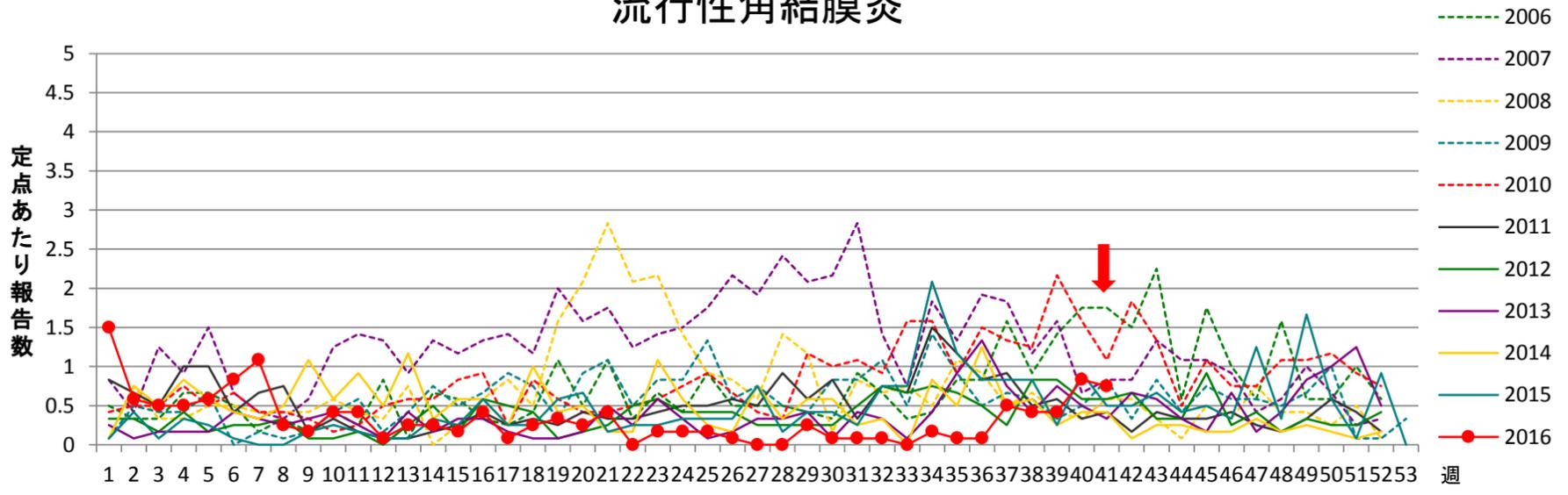
### 流行性耳下腺炎



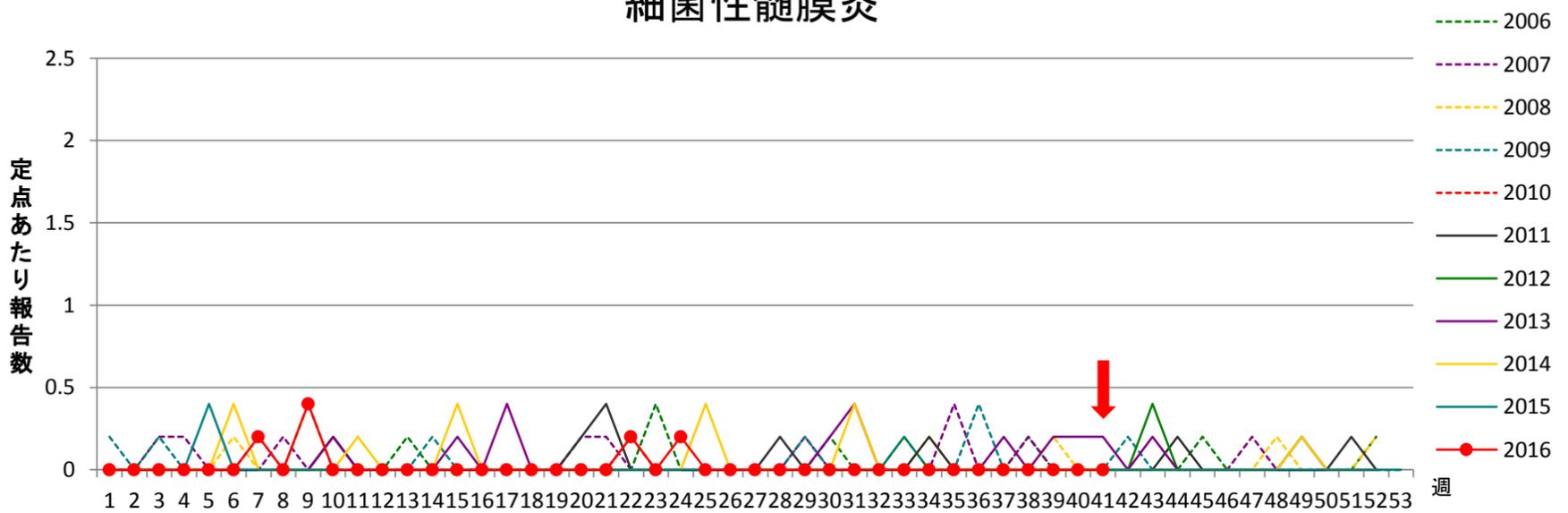
### 急性出血性結膜炎



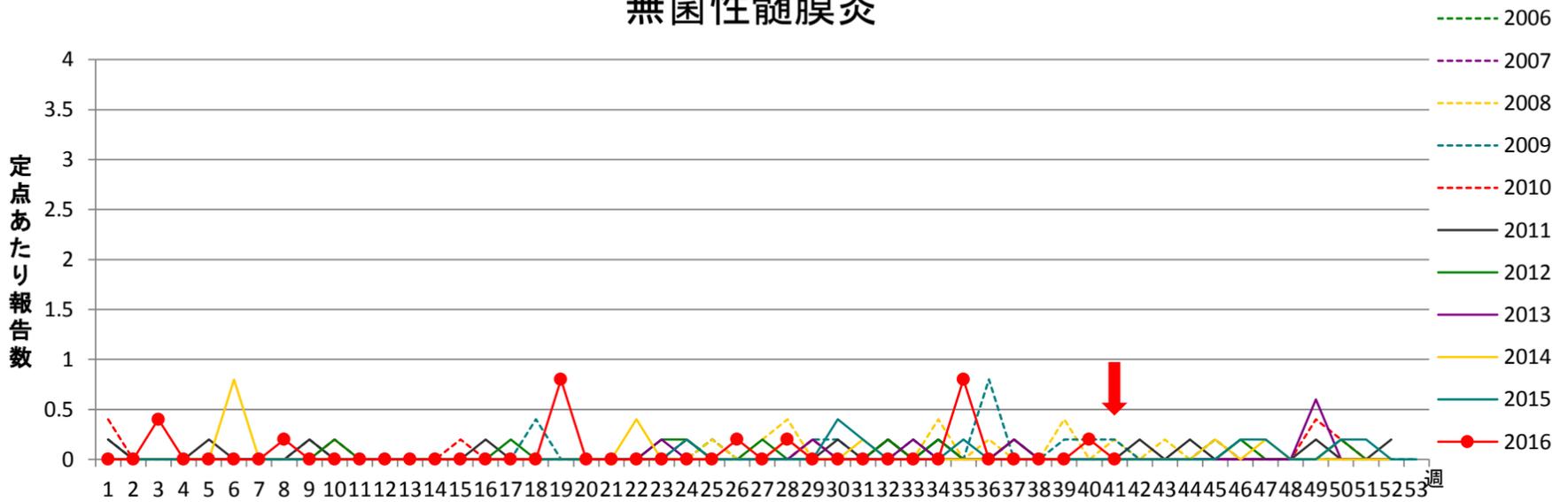
### 流行性角結膜炎



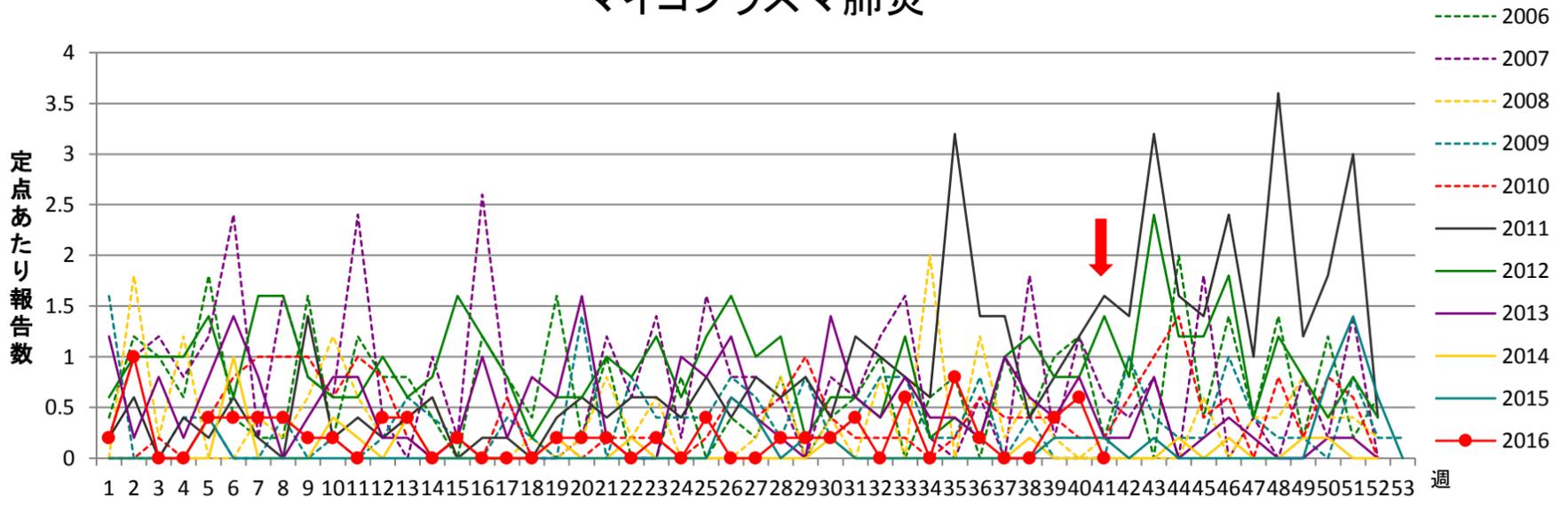
### 細菌性髄膜炎



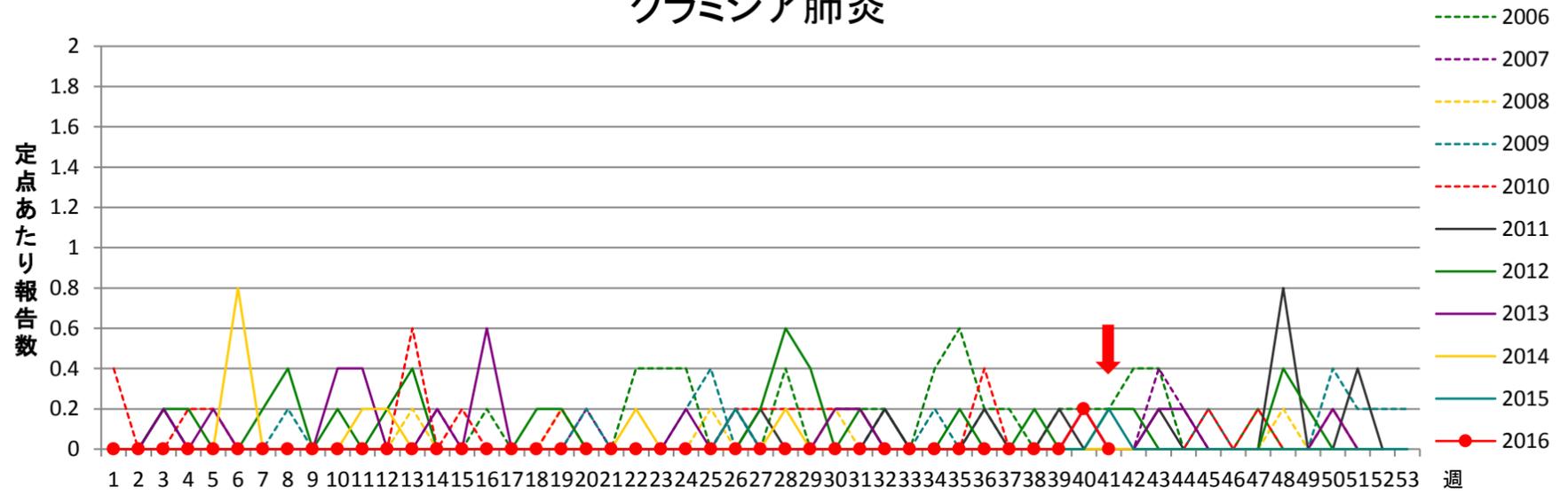
### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎



### 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

